

優秀賞

恐れのない自分になれたら

聖園女学院中学校 3年 鈴木 葉音

この作文を書くに至り、私は悩んだ。失敗から学んだこと、という題材で自分の十五年の人生を振り返ってみる。物心ついた頃から。そして気づいた。私には「失敗」を語れる経験がないことに。というより、「失敗」というものを遠ざけて生きてきた自分がいる。いえ、小さな失敗はたくさんあるのだ。夜更かしが招いた寝坊や量りが甘かった料理の失敗など、生活の中で細かい失敗は溢れている。でも今原稿用紙を前にして、武勇伝のように語れることがない。この課題を学校からもらっていないければ、自分に向き合うこともなかった。

幼少の頃から長女として忍耐やきちんとすることを身に付けさせられた私は、気がついたらどの場面でも「出来る」ことが前提とされていた。周りの大人たちが作り上げた自分に逆らわず生きて、「いい子」と呼ばれる自分がいた。私はその期待に応えるかのように、平気な顔をしているがいつも緊張した子になっていた。例えるなら、水面では堂々と見えるが水面下では懸命に足を動かしている白鳥のように。ピアノの伴奏、人前でのスピーチ、そういったことをさせてもらって、周りからは必ず堂々としていたねと言われた。本当は、足はガタガタだったし心臓はドキドキだった。心では失敗を恐れていたから。

私はこの先いつまでもこうして生きていくのだろうか。ふと不安になる。いつか息が切れてしまう時が来て、その時大きな失敗をするかもしれない。怖い気持ちと、逆に私に安堵をくれるのではという気もしている。そう考えると、失敗を恐れていた自分が失敗、だったのかもしれない。人生は失敗の連続であり、何もなかった人生よりいろいろあった人生のほうが後に心を豊かにしてくれるという。失敗を経験すれば他者に共感し、思いやる気持ちを持つ、許す心を持つようになる気がする。そのためには、失敗を恐れるのではなく、様々な経験を経て成長していきたい。